

## 令和2年度学校評価のまとめ（概要版）

### 結論

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、年度当初の学校休業、主な行事の中止や規模縮小等、例年と異なる学校運営を強いられた1年間となった。また、来年度に控えた「新学習指導要領」完全実施への移行準備、新しく導入された統合型校務支援システムへの対応、さらにGIGAスクール構想に向けた準備等、様々な教育制度への対応に追われた1年でもあった。

こうした状況の中、本校では個々の教員が知恵を絞り、その都度学校組織として対応策を確認しながら学校運営を進めてきた。アンケートからは、いくつかの課題は残るものの、学校長より示された6項目の学校経営方針指導重点について、全職員が協働して取り組んできたことが分析できる。背景として、休校期間中に人事評価の目標設定面談等を通し、指導重点や具体的施策について周知されたこと、また、個々の教員の責任や役割分担を明確化し組織運営を重視したこと、行事等の在り方を検討する中で、最優先すべき教育内容について焦点化したこと等が考えられる。これらのことは、個々の教職員にとって目標が明確となり、焦点化された教育活動が可能となったものと捉えられる。別紙「昨年度の自己評価の数値集計表との年間比較」からは、以下に示すような成果が見られた。

総合的な評価項目（回答A）として、「校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか」については、全職員が「取り組んでいる」と評価した。同項目の「あなたは取り組んでいるか」（回答B）の回答値についてもほとんどの職員が「取り組んでいる（「ある程度取り組んでいる」も含む）」と評価した。また、ほとんどの項目において、昨年度より回答平均値が向上したことから、本年度、個々の教員の充実した指導と、学校組織の活性化が図られたことが判断できる。

以下に、「職員による自己評価アンケート」及び参考資料（「生徒アンケート」「保護者アンケート」）より明確となった、指導重点ごとの成果と改善すべき課題について示す。

#### 指導重点（1）学ぶ意欲を高める授業づくりによる確かな学力の向上

○授業改善に関わって、昨年度課題としてあげられた授業での「振り返り」の充実について、多くの職員が新たな施策に取り組んだ結果、改善傾向が見られた。きめ細かな学習指導については、個々の教育的ニーズに応じ可能な限り実施することができた。また、自主学習ノートの提出は定着しつつあり、質的な充実が今後の課題である。

#### 指導重点（2）自己指導能力を育む生徒指導と心の教育の充実

○全ての職員が学校の教育活動全体を通して道徳的指導を推進している。反面、2割弱の生徒が学校生活に対する満足感が得られていない現状がある。指導方針を見直し、生徒理解・個に応じた指導の充実を通して改善を図る必要がある。

#### 指導重点（3）「自他を守り、命を大切にす健康・安全教育の推進」

○本年度は、年間を通して感染症拡大防止に向け徹底した取組が進められ、命や健康を守るための意識が職員・生徒ともに向上したことが成果としてあげられる。また、洪水時の避難場所への移動訓練や予告なし避難訓練の実施等により、緊急時の避難方法に関する防災意識の向上を図ることができた。今後も継続的・計画的に具体的な方策を持って取り組む必要がある。交通安全指導・安全教育に関わっては、今後も継続的な指導が必要となる。

#### 指導重点（4）「自立を育む特別支援教育の体制づくり」

○本年度は、特別な支援が必要な生徒に対して専門家や関係機関を交えたケース会議を複数回実施し、各機関の役割分担の明確化を図るとともに、合理的配慮の内容検討等を行い特別支援教育の充実を図った。また、授業では、授業者、特別支援教育支援員、学習指導員の協働体制のもと、個に応じたきめ細かな指導の充実を推進した。さらに、通常学級の学習課題のある生徒に対しても、取り出し指導や補習等可能な限り実施し、きめ細かな対応を進めることができた。一方で個別の支援計画・指導計画に基づく指導と評価については、まだ改善の余地がある。

#### 指導重点（5）家庭・地域社会・学区内小学校との連携の一層の強化

○本年度は、感染症対策のためほとんどのPTA活動や地域との連携行事（職場体験、小中合同研修会、中道ふれあい祭、地域防災訓練等）を実施することができなかった。こうした状況の中ではあったが、保護者の学校行事へ参加機会を確保するため、学園祭等工夫しながら実施できたことは大きな成果であったと考えられる。また、例年に比べて学級通信等学校からの各種お便りの発行数が多くなり、情報提供が確実に図られたことも成果としてあげられる。今後も、小規模校の利点を生かしながら家庭・地域との連携を推進したい。

#### 指導重点（6）その他（今日的課題への対応）

○新学習指導要領の全面実施を目前に控え、外部講師を招いての学習会や環流報告、授業研究等、研究主任を中心に計画的に校内研究が推進された。また、GIGAスクール構想を見据え、職員のICT活用能力及び活用指導力の育成にも力を入れた。次年度以降、授業研究を柱としたより実践的な研究へと発展的に継続し、各教員の資質・能力の向上、学校全体の教育の質的向上につながるよう工夫したい。

- 新学習指導要領全面実施、GIGAスクール構想を見据え、校内研究を中心に「主体的・対話的で深い学び」及びICTを活用した「個別最適化した学び」に向けた授業改善を推進する。
  - ・授業では、学習目標に対する自己評価や、学習内容の確認方法の工夫（小テスト等）を推進し、生徒の発言力や文章力、粘り強く学習に取り組む態度等の育成に力を入れる。
  - ・新たな3観点評価を適切に行うことにより、生徒の学習改善、教員の指導改善を図る。
  - ・各種研修会等を通し、職員のICT活用能力及び活用指導力の向上を図る。（必要に応じて、オンライン授業の実施等に対応できるようICTの有効活用について準備を進める。）
  
- 生徒指導と心の教育の充実を図る。
  - ・全ての生徒の居場所づくりに向け、道徳教育・人権教育・キャリア教育等、学校の教育活動全体を通して教科等横断的に実践することを心がける。
  - ・学級経営を中心に、集団への指導（ガイダンス）と個に応じた指導（カウンセリング・教育相談を含む）の双方により生徒の発達を支援する。
  
- 自立を育む特別支援教育の体制づくりを一層充実させる。
  - ・校内委員会・ケース会議を臨機応変に行うことにより、個別の支援計画・指導計画の共有と、合理的配慮等の見直しを継続的に行う。その上で、個々の生徒の教育的なニーズを可能な限り把握し、個に応じたきめ細かな指導を推進する。
  
- 家庭・地域社会・学区内小学校との連携を一層強化する。
  - ・小学校との連携については、3校で話し合われた事項を踏まえ、授業規律や生徒指導上の確認事項などを意識して取り組んでいく。
  - ・家庭学習が習慣化していない生徒について、担任は保護者と連携する中で、家庭学習の内容指定をするなど具体化し習慣化に努める。